

医学部ウォーカー

1面：先制医療学講座設置にあたって／地域侵襲制御医学講座の設置にあたって／教授就任にあたって／医学研究科長・医学部長寄稿 3面：病院長再任にあたって／理事（企画担当）に就任して 最終講義 4面：弘前大学COIが教えてくれたもの：9年間の活動を終えて／SD章授与式 5面：医学科学位記伝達式／卒業生進路状況 6面：入学試験報告／研究室研修を終えて／優秀発表賞を受賞して 7面：ベスト指導医賞表彰式／ベスト指導医賞を受賞して 8面：優秀指導医賞を頂いて／書籍のおしらせ 9面：学生だより／地域の病院で研修して 10面：留学だより／青森あすまし温泉紀行 11面：若手教員・医師だより／研究室紹介 脳神経内科学講座、医学医療情報学講座 12面：総合診療医学講座／写真コラム 13面：部活動紹介 医学部剣道部、医学部空手道部、Medical Cool Quartet 14面：人事異動

題字 元弘前大学長 遠藤正彦氏筆



令和四年四月一日付で、医学研究科附属健康未来イノベーションセンターに



健康未来イノベーションセンター

「先制医療学講座」設置にあたって

先制医療学講座 教授 三上達也

「先制医療学講座」が設置されました。本講座は、同センターの「地域の健康づくり部門」が講座化されたものです。地域の健康づくり部門では、岩木健康増進プロジェクト、いきいき健診、QOL健診（QOL: quality of lifeを維持するための啓発型健診）に代表される健診事業を主導してき

ました。また、これと並行して、教育学部と連携した小中学校での健康教育、佐藤弘道氏（NHK「おかあさんといっしょ」第十代体操のお兄さん）のご協力のもとに親子体操教室を開催し、地域の健康づくりに必要不可欠な健康増進リダーの育成にも力を入れています。

岩木健康増進プロジェクトは、中路重之特任教授が中心となり、弘前市岩木地区において平成十七年から開催している大規模住民健診です。皆様ご存知のように、社会環境データから個人生活活動データ、体力測定をも含む生理・生化学

データ、分子生物学的データまで、超多項目を取得する健診です。いきいき健診は、全国八拠点で行っている認知症のコホート研究です。弘前拠点では、約二千四百名の高齢者を対象に健診を兼ねて実施しております。QOL健診は、健康寿命の延伸に重要なメタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、口腔衛生、精神衛生に着目して行う健診です。青森県医師会附属の「健やか力推進センター」と一緒に、県内の多くの自治体・企業・生協などで実施しています。特徴は、楽しく健診を実施し、その日のうちに結果を出し、その場で健康教育を行うことです。今後は、全国展開も見据え、社会実装も検討しております。

先制医療学講座では、今後も岩木健康増進プロジェクトをはじめとした健診事業を統括・実施していきます。これらの健診で得られたデータを基に、同じセンター内の医療データ解析学講座、多数の共同研究講座を含む本学の講座、京都大学・東京大学をはじめとした学外機関とも協働して生活習慣病との関連を継続して探索して参ります。昨年、本プロジェクトのデータを用いた三年以内の疾患発症予測モデルが構築されました。今後は、介入による発症予防、最終的には健康寿命の延伸を目指して参ります。



寄附講座

「地域侵襲制御医学講座」の

設置にあたって

地域侵襲制御医学講座 教授 廣田和美

令和四年四月一日付で、寄附講座・地域侵襲制御医学講座が、設置されました。十和田市立中央病院からの寄附講座で、担当教授に筆者が併任となり、准教授には木村太附属病院麻酔科講師が昇任しました。

医学研究科における麻酔科学講座の役割は、青森県を中心とした手術を受ける患者さんの安全な周術期管理を推進するために、臨床、基礎の両面から侵襲制御に関する研究を行い、得

られた研究結果を臨床に応用していき、術後に地域社会において健やかで心豊かな日常生活へのスムーズな復帰に寄与する医療システム構築です。つまり、麻酔科学講座は、県内の高度急性期医療の一翼を担うべく、大学病院だけでなく県内の高度急性期医療にも深く関わって参りました。青森県の急性期医療は、弘前大学医学部附属病院をはじめ各地域の基幹病院が中心となって行っております。

上十三地区では、地域医療構想として十和田市立中央病院が急性期医療を中心に行うことになっており、Hiro Care Unitsの設置などを進めるにあたり、麻酔科医の増員が必要になっておりました。このため今後、この寄附講座を通じて、十和田市立中央病院での周術期を中心とした急性期医療強化に携わることになります。また、十和田市立中央病院では、当医学部医学科生の診療参加型臨床

実習への協力や多種多様の臨床経験を積む必要がある研修医の受け入れ、さらには専門医を目指す専攻医の受け入れも積極的に行っており、医学研究科並びに医学部附属病院と十和田市立中央病院の連携が強化されることは、大変重要なことと考えております。今までの、医学研究科には、青森県、弘前圏域定住自立圏、一部事務組合下北医療センター、つがる西北五広域連合、三沢市、大館市、八戸市立市民病院などの多くの自治体または自治体病院が関係した寄附講座の設置がなされてきました。今回そこに、十和田市立中央病院も加わることに、県内の

の各医療圏の自治体全てから寄附講座を頂けたことになりました。このように、各自治体が医学研究科に寄附講座を開設して下さること、県内の各医療圏との連携の深化が進み、弘前大学大学院医学研究科が目指している循環型専門医育成という概念にも一致すると考えております。

最後は研究科長としての考えを述べてしまいました。皆様の益々の御指導御鞭撻をお願いできれば幸いです。宜しく申し上げます。

共同研究講座

「データヘルス研究講座」の
設置にあたって

データヘルス研究講座 教授 伊東 健

この度、令和四年一月一日

付でデータヘルス研究講座が医学研究科に設置され、三月二十九日(火)に福田眞作学長、廣田和美医学研究科長、加藤俊也代表取締役社長のご臨席のもと講座開設式が執り行われました。講座の設置期間は二〇二二(令和四)年一月一日(二〇二四(令和六)年十二月三十一日)です。データヘルス研究講座の構成員は現時点で弘前大学から、中路重之、玉田嘉紀、三上達也、藤井穂高、葛西秋宅、株式会社ミルテルから、加藤俊也、遠藤恒介、松尾祐児、林さくらです(敬称は省略させていただきます)

た。

株式会社ミルテルは平成二十四年に設立された広島大学発のベンチャー企業です。テロメアテストとミラテストからなるミルテル検査をはじめ、健康診断の研究・開発、医薬品等の製造及び販売、医師との連携による臨床検査や臨床診断サービスの提供など幅広く医療関連業務を行っています。ミルテルは二〇一九年一月に明治安田生命保険相互会社と共に共同研究講座「未病科学研究講座」を弘前大学医学研究科に設置し、「未病」をキーワードに三年間共同研究活動を行ってきました。この度、



二〇二二年一月からは、そ

れぞれ別の共同研究講座を設置し、弘前大学との共同研究をさらに発展させることとなりました。データヘルス研究講座では「岩木健康増進プロジェクト」の超多項目健康ビッグデータを活用し、機械学習など最新のデータ解析手法を駆使して疾患予防・早期発見の観点から具体的な教育・普及方法を提案し、超高齢社会を迎える全世界の健康寿命の延伸に貢献していきます。

具体的には加齢や生活習慣・環境によって短縮速度が変化する「テロメア」、テロメアと類似した挙動を示しつつ可逆的に長さが変化する「Gテール」、発現パターンが変化する「小分子RNA」などを測定し、岩木健康増進プロジェクトの健康ビッグデータと組み合わせることで、健康診断結果から算出できる未病予測モデルを開発し社会実装します。さらには新たな疾患バイオマーカーの社会実装も目指します。

ミルテルの皆様は加藤社長をはじめ、熱い方ばかりであり、必ずや本共同研究講座から世界に発信できる研究成果が生み出されるものと信じて疑いません。医学研究科の皆様方のご支援・ご協力を賜いましたら幸いです。

教授就任にあたって

保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域

教授 斉藤 まなぶ



令和四年四月一日付け

で、保健学研究科総合リハビリテーション科学領域・医学部心理支援科学科の教授を拝命いたしました。心理支援科学科は国家資格である公認心理師の養成を目的に、令和二年四月に医学部に新設された設置中の学科です。学生たちは学部を卒業すると、さらに大学院進学あるいは実務二年を経て受験資格を取得し、国家試験に臨みます。多くの心理学科が文系に所属している中、本学では心理支援科学科が医学部内に設置されました。理系、特に医学系に属する心理学科は全国でも少数派です。全国の公認心理師の三割が保健医療分野で勤務をしており、予防医学も含め、メンタルヘルス支援のニーズは高まりつつあります。保健医療分野では、エビデンスに基づいて、アセスメントを活用し、効果のある技法を治療に用いること、疾患の心理教育や動機付け、チーム医療として患者のメンタルの問題を解決するなど、心理支援の場が広がっており、質の担保が課題となっており、本学は、専門医療機関である大学病院や関連病

院が活用できる環境が整っており、保健医療分野に強い公認心理師を育成するには、大変恵まれています。大学院での実習や資格取得後の就職のことも見据え、大学病院で心理支援の臨床・教育・研究ができるよう整えていきたいと考えています。

今年度から、第一期生(学部三年生)が臨床実習として現場に出ていきます。四月から教務を担当している三年生十名はとても優秀であり、今後の活躍が楽しみです。医療倫理、医療安全、感染対策を含め、現場に出る準備を教員一丸となって進めています。現場で迷惑をかけることがあるかもしれないが、初めてのことで故に容赦いただき、お気づきの点はご意見を賜り、改善させていただきます。たく存じます。異動後から学科や大学の設置に関わるようになり、現在の医学部教育が形作られるには数多くの先生

研究不正と性善説

医学研究科長 廣田 和美



数年前にScience誌(Science 2018; 361: 636-41)で、日本からの論文は全体の五割程度であるのに、個人での不正論文数のランキングのトップ10に日本人が半分近く入っているのは何故かと、日本を代表する絵画である葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」をもじって「Tide of Lie(嘘の大波)」と題して取上げられました。日本は不正論文

文総数では決して世界のトップ10に入っていないにもかかわらず(Science 2018; 363: 395)、個人ランキングトップテンに、日本人は一、三、四、五、八位と五人ランクインしていること、あたかも日本人研究者は不正を行うことが多いように書かれてしまったわけですが、千五百七十六名の研究者にオンラインアンケートを行った結果、六〇・九〇%の研究者が他人の研究を再現出来なかったという報告があります(Nature 2016; 533: 452)。このアンケート結果でも分かれます様に、日本だけが問題ではなく世界中で不正が行われているわけ

です。つまり、不正論文総数で少ないのに、個人で見ると上位を多く占めてしまうという奇妙な現象が、日本で生じているわけです。これは、日本では、個人の不正を長く野放しにしてしまっている結果、不正論文数が累積していき膨大な数になってしまったと考えられます。実際、日本人の論文不正に対する告発は、常に海外からであり、国内からの告発は極めて少ないです。つまり自浄作用に欠けると言えるわけです。では、何故自浄作用に欠け、不正が野放しにされ易いのでしょうか。私見ですが、これは日本人の国民性が一因だと思います。日本人の基本精

方のご尽力があったのだと実感するとともに、現在まで医師、教員として温かく育てていただいたことを心より感謝しております。

現在行っている子どものメンタルヘルスに関する診療と研究は、これからも続けていきますが、精神医療の主たる対象である成人の精神疾患の診断や治療、産業や健康医学等メンタルヘルスが必要とされる分野においても貢献していきたいと考えています。微力ではありますが、保健医療分野の教員として、学生や現場の医師、公認心理師の育成に尽力していきますので、引き続きご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

神構造は「性善説」に基づいており、「騙す方が悪い」という考え方であるため、相手が不正をしていると、「まさか」という気持ちで根底にあつてなかなか見抜けないと思われがちです。一方、海外の多くの国は「性悪説」をもとにした契約社会であるため、「騙される方が悪い」が基本であり、常に論文に対しても疑いの目を向けるわけです。このため、不正を指摘出来るのだと思われがちです。つまり、性善説に基づく神構造は、日本人の良さであり弱点でもあると言えます。

とは言い、研究不正は撲滅しなければなりません。一方で、研究不正を一〇〇%防げる対策というものはないと考えています。日本専門医機構は専門医取得や維持に倫理講習の受講を義務化していますし、各大学は職員に対して日本学術振興会が提供する研究倫理eラーニングコース(eLCORE)の受講を義務化しています。さらに日本学術振興会科研究費でも、研究費取得にあたって倫理講習受講を義務化しています。また当大学でも、御存知の様に、上記の義務的な講習以外にも、独自に毎年学内倫理講習を行っています。昨年発覚した昭和大学麻酔科教室員による論文不正ですが、昭和大学の調査報告書によれば、不正を行った教室員は研究倫理講習としてeLCOREラーニングプログラムを二〇一八年十月に受講していましたが、それでも不正を防ぐことは出来なかったことから、倫理講習をどんなに受講させても不正を防ぐことができないことは明白です。

(次ページへ続く)

（前ページより）

やはり、各講座での適切な研究データ管理体制と監視の徹底が必要であると思えます。実験ノートは勿論、そこに記録されたデータを講座として管理し、研究結果を講座全体で監視していくことが重要だと思います。研究結果の監視方法として、最近は臨床業務の忙しさから軽視されがちな研究報告会を定期的の実施することが重要だと思っています。研究報告会において、

教室員全員でデータ解析を検証することで不正の見逃しを防げるのではと期待しています。勿論これでも一〇〇%不正を防ぐことは出来なと思っています。現在各学会は、研究不正に対して、共著者に対してはかなりのペナルティーを科しています。日本麻酔科学会では、昭和大学での研究不正に対して、不正を行った者の学会からの永久追放、主任教授に対しては管理不足を理由に会員資格停止処分を行いました。共著者に

分を行いました。共著者にしても今後処分がなされます。しかし、きちんと講座で研究データ管理と監視をしていることを示し、講座としては最大限不正防止への努力をしていたことを示すことで、共著者になつていく教室員を守る、少なくとも減刑にすることは可能ではないかと思っています。ですので、各講座での適切なデータ管理と監視をどうか宜しくお願いしたいと思います。

理事（企画担当）に就任して

弘前大学理事（企画担当）

若林孝一

（脳神経病理学講座 教授）



令和四年四月一日をもちまして弘前大学理事（企画担当）・副学長に就任いたしましたので、この場をお借りして就任のご挨拶を申し上げます。

課程学生への経済的支援については、昨年度JSTの次世代研究者挑戦的研究プログラムに採択され、さらに社会人を除く大学院生への授業料免除が実現されたこともあり、研究大学に肩を並べるところまでできました。あとはCOLNEXTに採択されればと願っております。

広報に関しては、大学のホームページが四月から新しくなりましたが、広報活動には事務方だけでなく学生の力も必要です。人事面では、七年前に設置された

教育研究院が今年度中には廃止される方向です。国際化のためには、単に留学生を増やすだけでなく、学内の表示や施設を含めた全学的な取り組みが必要です。評価はもちろん重要ですが、そのための労力を少しでも軽減できないかと考えています。コンプライアンスの遵守は当然のことですが、ハラスメント相談の種類や質が多様化しているこ

とを感じます。幸いなことに現在も医学研究科の教授（脳神経病理学講座）を併任しておりますので、時間は限られていますが研究指導も継続しています。医学研究科、附属病院の皆さまには、これまでもお世話になって参りましたが、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

附属病院院長寄稿

病院長再任にあたって

附属病院長 大山 力



私は、令和二年四月に病院長に就任し、令和四年三月をもって病院長としての最初の二年間の任期を終えました。令和四年四月一日付けで再任となりましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

尽力とご協力に心から感謝申し上げます。社会全体が新型コロナウイルスに適応し、新たなスキーム、新たな生活様式、新たな展望を持つて歩み始める新たなスタートに際して、清々しい気持ちで臨んでおります。新興感染症はこれからも姿かたちを変えながら私達の眼前に立ちあがるとは思いますが、叡智を結集して毅然とした対応を心がけて参ります。

本年度は、第四期の最初の年度でもあります。これから始まる六年間の第四期において、附属病院が掲げた中期目標は以下の通りです。

1. 安全かつ質の高い医療を提供するとともに、地域医療機関及び地方公共団体等と連携し、地域の医療課題に積極的に取り組む。

2. 医学部及び関係機関と連携し、医師をはじめとする医療人の卒前・

卒後を含めた一体的な教育体制を充実させる。また、医療人の専門性・国際性を向上させるための教育・研修体制を充実させる。

3. 特定機能病院として医療分野を先導するた

4. 超高齢社会を踏まえた医療環境の変化に対応し得る病棟整備計画を遂行するため、整備中の第一期病棟を竣工させる。さらに、第二期病棟の整備計画を推進する。

第一期病棟は令和五年三月に竣工予定で、同年七月に現在の第一病棟の引越を予定しております。その後、第一病棟を臨床研究棟として使用するための大規模な改修工事を経て、臨床研究棟が現在の第一病棟に移転します。そして、現在の臨床研究跡地に第二

第一期病棟は令和五年三月に竣工予定で、同年七月に現在の第一病棟の引越を予定しております。その後、第一病棟を臨床研究棟として使用するための大規模な改修工事を経て、臨床研究棟が現在の第一病棟に移転します。そして、現在の臨床研究跡地に第二

令和四年四月一日をもちまして弘前大学理事（企画担当）・副学長に就任いたしましたので、この場をお借りして就任のご挨拶を申し上げます。

課程学生への経済的支援については、昨年度JSTの次世代研究者挑戦的研究プログラムに採択され、さらに社会人を除く大学院生への授業料免除が実現されたこともあり、研究大学に肩を並べるところまでできました。あとはCOLNEXTに採択されればと願っております。

広報に関しては、大学のホームページが四月から新しくなりましたが、広報活動には事務方だけでなく学生の力も必要です。人事面では、七年前に設置された

教育研究院が今年度中には廃止される方向です。国際化のためには、単に留学生を増やすだけでなく、学内の表示や施設を含めた全学的な取り組みが必要です。評価はもちろん重要ですが、そのための労力を少しでも軽減できないかと考えています。コンプライアンスの遵守は当然のことですが、ハラスメント相談の種類や質が多様化しているこ

とを感じます。幸いなことに現在も医学研究科の教授（脳神経病理学講座）を併任しておりますので、時間は限られていますが研究指導も継続しています。医学研究科、附属病院の皆さまには、これまでもお世話になって参りましたが、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和三年度

最終講義

大熊 洋揮 教授

（脳神経外科学講座）

学務委員長 鬼島 宏 教授
（病理生命科学講座）

令和三年度の最終講義が、令和四年三月二十四日に医学部講義棟にて行われました。昨年六月に、年度末より一足早く退任された大熊洋揮教授（脳神経外科学講座）が最終講義を担当されました。

演題は「不変と転変」であり、大熊教授が脳神経外科医としてスタートしてから今日までの半生を振り返りながら、近年の脳神経外科学の発展について紹介されました。脳動脈瘤の治療は、従来の開頭クリッピング術に加えて、近年は血管内コイル塞栓術の適応例が増えている現状があるものの、今後一定の割合でクリッピング術が行われるであろう点も強調されまし

た。くも膜下出血後の脳血管攣縮は、その機序が解明されるにつれて、治療を含めた対応が変化していることが示されました。脳神経外科医として、多くの臨時手術を含む脳血管疾患の臨床に従事している傍らで、専門である脳血管攣縮の機序とが含まれている旨のメッセージが盛り込まれたアカデミックな講義でした。脳神経外科学講座において臨床と研究の両輪を回しながら、学生教育もしっかりと行ってきたことが示されました。講義終了後には多数



の花束贈呈があり、会場を埋めた聴衆から大きな拍手が送られました。最後に医学研究科長から謝辞があり、最終講義の幕が閉じられました。

大熊先生は、令和三年七月より国立病院機構弘前病院の院長に就任されていいます。同病院は、令和四年四月からは弘前市立病院と統合され、新中核病院弘前総合医療センターとなりました。今後は、新病院の管理（次ページへ続く）

（前ページより）
運営に従事されるところに、附属病院と共に津軽地区の医療の中核を担っていただけると確信しております。

弘前大学医学研究科の発展に長きにわたり尽力されてきた大熊先生に感謝を申し上げますとともに、今後とも医学研究科にお力添えをいただきますよう、お願いを申し上げます。



弘前大学COI革新的イノベーション 創出プログラム「COI STREAM」 終了にあたっての最終報告

弘前大学COIが教えてくれたもの・9年間の活動を終えて

COI研究推進機構 副機構長 中路 重之
（社会医学講座 特任教授）

平成二十五年度にCOI（Center Of Innovation）STREAMの公募があり、これに採択されました。公募を担当していただいたのは高度先進医学研究センター分子生体防御学講座の伊東健教授でした。伊東先生は事前に行われた説明会にもお運びいただき周到な申請書を作成してくださいました。間違いなく採択の一番の立役者です。

おそらくこのような国の大型のプロジェクトを獲得したのは本学始まって以来で、まさに身も引き締まる思いでした。当時の佐藤学長から「大丈夫か？」と発破をかけられたのを覚えています。

当時私自身が医学研究科長という立場にあったこともあり、私が拠点長をつとめさせていただくことになりました。COIは、十年後の追い求める社会を想定

し、それからバックキャスト（テイングして）を進める、特に企業と大学との連携でそれを成し遂げる、という趣旨のプロジェクトです。

本COIでは、産官学民連携（オープンイノベーション）をして、青森県の短命の解決を目指してきました。とくに企業と連携する。その際、産官学民を自然発生的に集めるためのデータと人のプラットフォームが必須であり、これを構築する。これが本COIの骨子です。

期間中、産官学民の連携は以下のように行われました。

①企業（産）：弘前大学COIに、延べ八十以上の企業が参画し、多くの製品開発のための研究を行った。青森県の企業の健康づくりが青森県健康経営認定制度（二〇一七

年開始）のもとに集結した。

②自治体（官）：青森県、弘前市が弘前大学COIと強く連携し中心的役割を担った。青森県、全四十市町村で首長による健康宣言がなされた。

③大学（学）：弘前大学COI活動の将来の受け皿、拠点として健康未来イノベーションセンターが開設された。弘前大学COIの活動の中で、弘前大学全体の横断的連携がなされ、全国10を超す大学とのデータ連携ができた。

④地域住民（民）：青森県医師会健やか力推進センターを設立し、健康リイダー育成事業を展開し約五千人の健康リイダーを育成できた。これに青森市と弘前市の健康リイダー育成事業が加わった。とくにデータプラットフォーム



第一回日本オープンイノベーション大賞（内閣総理大臣賞受賞）（2020年3月）

フォームは私たちの活動の根幹であり、その中にはリアルワールドデータと呼ばれる多種多様なデータが集められます。岩木健康増進プロジェクトの取得データ、全国13大学のデータ、QOL健診（QOLレベルの身近な健康度測定を行う）の場で健康教育を行う）のデータ、次世代医療基盤法で活用できるデータ、などです。将来的にはこれに各種ライフログなど健康関連データを加え、そのビッグデータを活用して生涯PHR（Personal Health Record）を作成したいと考えています。全国、全世界に敷衍化したデータプラットフォームが完成すれば、人のプラットフォームも構築しやすくなります。このことが、大学の発展、青森県

の発展（短命県返上を含む）、地方創生の実現、SDGsの達成などに結びつくものと確信します。

期間中三年ごとにJST本部の評価を受けました。順にS、S（+）、S（+）とその都度最高評価を獲得することができました。全国レベルの主要な表彰（第一回日本オープンイノベーション大賞内閣総理大臣賞など）も受賞できました。

全九年間の本COIは本年三月いっばいで終了しましたが、COLNEXT獲得に向け、村下公一教授、三上達也教授の新体制で動き始めています。

私自身、弘前大学COIに、主要メンバーの一人としてかわり、多くの大切なことを学ばせていただきました。その一つが弘前大

令和4年度 SD章授与式

学務委員長 鬼島 宏
（病理生命科学講座 教授）

令和四年度SD（Student Doctor）章授与式が、令和四年二月二十二日に基礎大講堂にて挙行されました。

授与式では新五年度学生百四十九名が、医の倫理に従って行動することを誓うことで、診療参加型臨床実習（Clinical Clerkship）を開始するという大きな意義があります。臨床実習では、医療現場で患者さんの前に立たせていただくことの責任の重さと、診療行為を通じて医学を学ばせていただくことへの感謝の念を持ちながら、医療チームの一員として真摯に行動することが求め



られています。

本学におけるSD章授与式は、加藤博之教授（総合診療医学講座）の発案で、平成十七年度から始まり、今回で十八回目となります。

活動は地方大学にこそアドバンテージがあると考えます。あとは、全国、世界とネットワークで連携していけばいいわけです。そのような時代に単純な大学の機能分類がどれほどの意味を持つのかと考えてしまっています。弘前大学COIがそのようなことを教えてくれました。

弘前大学COIの活動は今後も継続していきます。皆様のより一層のご支援ご協力をお願いいたします。

さらに平成二十六年から、共用試験（Computer Based Testing CBT、および Objective Structured Clinical Examination OSCE）の合格者に対して、全国統一保証システムの一環として、全国医学部長病院長会議がSD認定証を付与することとなりました。つまり、SD章は、臨床実習生の身分証（ID）であると同時に、臨床実習を開始するための必要な知識と技能を身につけた証でもあります。

授与式では新五年度学生全員がBSLユニフォームとしての白衣姿で臨みました。例年ですと学生がOSCE等でお世話になった模擬患者さんや附属病院関係者も参加されるのですが、今年も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響で最小限の参加者の下で挙行されました。SD章授与式は、初めに廣田和美医学部長と学務委員長の挨拶があり、次いで大山力附属病院長訓示の後、新五年度学生代表の三好真代さんに附属病院長からSD章が授与されました。最後に、新五年度学生代表が以下の「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」を宣誓しました。

「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」

1. 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることを誓います。

2. 私は、学び得た医学知識をもとに、良心と尊厳をもって医学の務めを果たします。

（次ページへ続く）

（前ページより）

3. 私は、生命の始まりから人命を最大限に尊重し続けます。また、人間の法理に反して医学の知識を用いることはしません。

4. 私は、患者の健康を私の第一の関心事とします。

5. 私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。

6. 私は、私を教え導く人々に尊厳と感謝の念を捧げます。

7. 私は、私の自由意志に基づき名誉にかけてこれらのことを厳粛に誓います。

令和四年三月二十三日午前十二時三十分から弘前市民会館において、令和三年度弘前大学学位記授与式が行われました。昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の情勢下で、簡略化した学位記授与式（卒業式）が挙行されました。感染のリスクを可能な限り抑えるために、家族・来賓には出席を遠慮していただき、卒業生のみが間隔を空けて着席する形式となりました。福田眞作学

なお、この「誓い」を常に心に留めて臨床実習に臨むよう、付与されたSD章の裏には、「誓い」が印刷されています。SD章授与式の目的を十分に理解して、五年次から始まる臨床実習に真摯に取り組んでほしいと思います。

も必ず糧となるはずであろうから、今後も努力を継続して医療に貢献してほしいとの激励がありました。謝恩会も、三年ぶりに復活しました。短時間ながら、学位記伝達式と同じ会場の基礎大講堂で行われ、学生代表により学生生活の思い出と、医師となり医療を担ってゆく抱負が語られました。ソーシャル・ディスタンスに留意しながらの本町キャンパス内には、男子卒業生の凛々しいスーツ姿、女子卒業生の華麗な袴姿・着物姿が見受けられ、厳粛な中にも華やかな卒業の雰囲気を感じられました。

今回、医学部医学科の卒業生は百四十五名であり、地域定着枠（AO入試入学、前期日程定着枠入学、学士編入学青森県内枠）を中心とした半数以上の卒業生が青森県内で臨床研修を行い、弘前医療圏での活躍が期待されています。多くの学生が勉学の苦勞を乗り越え、さらには医師国家試験合格の直後でもあり、学位記授与式・伝達式の当日は笑顔の花が咲いていました。

一学年全員が集合する機会は、多分これが最後ではなからうかと思えます。弘前大学医学部医学科卒業という誇りを背負い、これからも切磋琢磨して、全国で活躍してくれることを願うものです。

第116回医師国家試験結果 ならびに令和3年度卒業生の 進路状況

学務委員会副委員長 袴田健一
（消化器外科科学講座 教授）

第百十六回医師国家試験の結果が公表され、全体の出願者数は一万三千五百五十三人（うち新卒九千四百七十三人）、受験者数は一万六十一人（同九千二百三十二人）、合格者数は九千二百二十二（同八千七百七十四人）、設置主体別の新卒合格率は国立九五・五％、公立九五・五％、私立九五・二％でした。合格率は女性（九三・四％）が男性（九一・七％）（合格者数（九〇・八％）を若干上回っています。合格者に占める女性の割合は二〇二一年の三三・六％と同水準の三三・七％でした。

一方、本学新卒者の合格率は九一・七％（合格者数一三二人／受験者数一四四人）でした。残念ながら全国平均を下回るとともに、昨年の九七・三％（同一〇七人／同一〇人）から大きく低下しました。要因については今後詳細な分析が必要ですが、二〇一六年度入学時定員が百三十二人、新卒受験者数が百四十四人、昨年の新卒受験者数が百十人でしたので、今回は留年を経験した学生が多く含まれたことも一因のようです。低学年から確実な学習の積み重ねが重要なことを示しています。

H28 ～ R3 卒業生進路状況												
	H28年度卒業生進路		H29年度卒業生進路		H30年度卒業生進路		R1年度卒業生進路		R2年度卒業生進路		R3年度卒業生進路	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
青森県	57	47.1%	56	41.2%	53	44.9%	60	48.4%	54	49.1%	68	46.9%
北海道	2	1.7%	3	2.2%	3	2.5%	4	3.2%	4	3.6%	2	1.4%
青森県以外の東北地方	14	11.6%	15	11.0%	9	7.6%	13	10.5%	12	10.9%	12	8.3%
東京以外の関東地方	16	13.2%	27	19.9%	25	21.2%	22	17.7%	20	18.2%	24	16.6%
東京都	11	9.1%	4	2.9%	10	8.5%	4	3.2%	2	1.8%	7	4.8%
中部	5	4.1%	14	10.3%	9	7.6%	11	8.9%	10	9.1%	8	5.5%
近畿以西	4	3.3%	6	4.4%	7	5.9%	4	3.2%	5	4.5%	9	6.2%
国試不合格・その他	12	9.9%	11	8.1%	2	1.7%	6	4.8%	3	2.7%	15	10.3%
合計	121	100.0%	136	100.0%	118	100.0%	124	100.0%	110	100.0%	145	100.0%
医師国家試験合格者	109	90.1%	125	91.9%	116	98.3%	118	95.2%	107	97.3%	132	91.7%

コラム 医学部 こぼれ話：

昨年五月に本町地区敷地の大規模な樹木の伐採が行われました。一か所は、保健学科体育館の南側に並んでいた高く伸びた樹木たちで、もう一か所が臨床研究棟西側の樹木です。前者の樹木はいずれも枝が幹のかなり上部にしか残っており、北国なのにヤシの木のようにも見える独特の形状をしていたものです。後者は、五階建ての臨床研究棟の西側面を覆い隠すように立ち並んでいました。

伐採の理由の一つには、カラス対策があります。弘前は、カラスの数が非常に多いことが印象的な町で、朝夕には大群のカラスが、町なかの高さのある建物と周辺のねぐらとを行き来します（私は、それを見たときに子供のころ見たテレビアニメ「サスケ」のオープニングテーマを思い出します）。本町地区は、カラスにとつて、高い建物が昼間の居場所になるだけでなく、敷地内の木々や建物、周辺の電線がねぐらとなっているようで、季節によっては、その「人口密度」が相当高くなります。カラスは、自分の止まる樹木の傍をとる人を、ギャーギャーと鳴き枝を揺らして脅かし、「落とし物」で攻撃します。体育館南側では、部地方五・五％、近畿以西六・二％でした。地域分布は例年と同様の傾向でした。すでに臨床現場の第一線でご活躍のことと思います。

カラスの糞尿が駐車した自動車汚し、臨床研究棟では、その西側の道路（郵便局のある道路）の通行人にまで被害を及ぼしていました。臨床研究棟西側の樹木たちに止まるカラスの数はかなり多く、その糞尿も相当なもので、臭いが居住性と研究環境に影響を与えていました。

樹木たちの伐採により、その周辺はカラスの害から解放されるとともに、すっきり・さっぱりとした建物の姿が見えるようになりました。臨床研究棟の前には、樹木がなくなつて自転車置き場が現れました。鬱蒼とした樹木が並ぶ光景が、たくさん自転車が並ぶ光景へと変わり、カラスの居場所が通勤・通学者にやさしいスペースに変わったのです。久しぶりに本町地区を訪れたOBやOGの方々は、一新された臨床研究棟まわりの光景と雰囲気大いに驚かれることと思います。私自身も、臨床研究棟の居住者ではないこともあって、今でも臨床研究棟を見るたびに新鮮な感慨があり、こんなにも自転車ユーザーがいたのだなとか、夜間には雰囲気のある街灯がくつきりと見えるようにもなったなとか、新しい姿を楽しんでいます。

令和4年度

入学試験報告

医学科入試専門委員長 上野 伸哉
(脳神経生理学講座 教授)

前年度（令和三年度）に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策下での入試となりましたが、前年度よりはじまった総合型選抜、一般入試における総合問題も二年目となり、滞りなく実施できました。学士編入学試験も例年通り順調に進めることができ、関係各位に感謝します。新型コロナウイルス感染症オミクロン株の流行により追試験の準備は必要となりましたが、該当受験生が多くなることもなく、また大きな混乱もなく無事に実施されました。志願者倍率については、前年度入

試は学士編入学以外の総合型選抜、前期日程ともに例年より減少しましたが、令和四年度はほぼ例年通りの倍率となりました（表1および2）。その内訳として、首都圏からの受験生数が回復したことが考えられます。数字の上では全般的に新型コロナウイルス感染症

表2. 志願者倍率 学士編入学 (カッコ内は受験者倍率)

年度	学士編入学
H26	17.35 (16.90)
H27	15.70 (14.55)
H28	17.40 (15.60)
H29	5.25 (4.95)
H30	5.55 (5.35)
H31	7.30 (6.90)
R2	8.00 (7.70)
R3	10.25 (9.15)
R4	12.55 (11.55)

表1. 志願者倍率（カッコ内は受験者倍率）

年度	総合型選抜 ※R2までAO入試	前期日程	計
H26	2.10 (2.10)	13.40 (11.72)	9.18 (8.13)
H27	2.17 (2.17)	13.67 (11.83)	8.85 (7.78)
H28	2.50 (2.50)	15.39 (13.53)	9.63 (8.61)
H29	2.70 (2.68)	7.81 (6.78)	5.53 (4.89)
H30	2.23 (2.23)	8.22 (7.09)	5.71 (5.05)
H31	2.19 (2.19)	9.82 (7.00)	6.62 (4.98)
R2	2.12 (2.12)	5.03 (4.16)	3.94 (3.39)
R3	1.83 (1.83)	4.06 (3.34)	3.13 (2.71)
R4	2.43 (2.43)	5.34 (4.40)	4.25 (3.36)

募集人員：

AO入試（すべて地域定着枠）は、平成26年度42名、平成27年度47名、平成28・29年度50名、平成30・31年度47名、令和2年度42名、令和3年度から総合型選抜に名称変更し47名、令和4年度42名。

前期日程の定員は、平成25年度67名（定着枠17名）、平成26年度70名（定着枠20名）、平成27年度65名（定着枠15名）、平成28・29年度62名（定着枠12名）、平成30・31年度65名（定着枠15名）、令和2年度70名（定着枠20名）、令和3年度65名（定着枠15名）、令和4年度70名（定着枠20名）。

総合型選抜（旧：AO入試）と前期日程を合わせた定員は、平成25年度107名、平成26年度～令和4年度が112名。

表3. 令和5年度入試日程予定（入試は、新入生が入学する時期で呼称）

令和4年10月下旬	総合型選抜（ケーススタディの自学自習、個人面接）
令和4年11月下旬	学士編入学（第2年次）第1次選抜（学力試験）
令和4年12月中旬	学士編入学（第2年次）第2次選抜（個人面接）
令和5年 1月14日(土) 1月15日(日)	大学入学共通テスト 大学入学共通テスト
令和5年 2月下旬	一般選抜前期日程（学力試験） 一般選抜前期日程（個人面接）

新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性があります。

流行以前の状況に戻ったと言えます。ただ、いまだにオープンキャンパスでの受験生および関係者の大学訪問、その際に開催される大学紹介、また受験生や関係者との直接質疑応答など、対面での交流ができない状態が続いています。令和五年度入学試験においても前年度と同様、デジタル化した情報提供を行う予定ですが、より多くの受験生に理解を深めてもらうべく、現在、次年度の入試に関する紹介の場の充実を計画しています。

令和五年度の入試は、今後の新型コロナウイルス感染症状況次第であり、確定していない事項も多々ありますが、柔軟な対応がとれるよう準備を進めています（表3）。今後とも入試業務へのご協力をお願いします。

令和3年度

研究室研修を終えて

感染生体防衛学講座 教授 浅野 クリスナ

令和三年度の研究室研修も、前年に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響のもと行われました。去年十月の時点で感染第五波が沈静化に向かっていたことから臨床講座での制限はありましたが、前年度よりも多くの講座で直接研究に触れることができたのではないかと思います。しかし、令和五年度の入試は、今後の新型コロナウイルス感染症状況次第であり、確定していない事項も多々ありますが、柔軟な対応がとれるよう準備を進めています（表3）。今後とも入試業務へのご協力をお願いします。

優秀発表賞を受賞して

医学科四年 山本 彩
(担当講座：法医学講座)

この度は研究室研修優秀発表賞に選んで頂き、誠にありがとうございます。今回の受賞は、法医学講座高橋識志先生の温かいご指導と同研究室メンバーのおかげで成し得ることができました。改めて深くお礼申し上げます。

発表内容は「特発性左外腸骨静脈破裂による後腹膜出血死の一例」です。この症例は世界でも五十数例しか報告されていない珍しい症例です。この疾患は、中高年の女性に発症しやすいが、左側に多い、という特徴があります。要因は機械性、炎症性、ホルモン性

優秀発表賞を受賞して

医学科四年 工藤 星奈
(担当講座：小児科学講座)

この度は研究室研修優秀発表賞をいただき、誠にありがとうございます。研究室研修において研究から発表までご指導を賜りました、小児科学講座の土岐力先生には大変お世話になりました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

私の研究テーマは「MLT-DSにおけるGATA1遺伝子の欠失変異について」です。ダウン症の子どもは急性巨核球性白血病に罹るリスクが高く、これをMLT-DSといいます。この原因とな

司法解剖の手法に加えて、死体に関する知識、さらに解剖や臨床の幅広い知識を、本研修を通して身に

考えられています。本症例の発表に当たり、どのような機序でこの疾患に至ったかについて、ご遺体の生前状況と解剖組織所見を踏まえた上で考察することは非常に興味深く、法医学の面白さを垣間見ることができました。同時に難しかった点は、組織像を見ながら死因につながる情報を見つけることでした。先生のご指導やメンバーの助けを借りて何とか発表内容を完成させることができました。

研究室研修では、たくさんの方の司法解剖に同席させて頂き、様々なご遺体と向き合うことができました。

る遺伝子変異は、GATA1遺伝子の2nd exon欠失変異とされています。しかし、最近ではGATA1遺伝子の3rd exon内の欠失変異によりexon skippingが起こり、MLT-DSを発症するケースがあると分かっています。この研究は、3rd exon内の「」がexon skippingの責任領域なのかを明らかにするという目的で行いました。

二年次に行うはずだった生化学実習をやっていたにもかかわらず、研究室研修での実験が初めての操作でした。実験器具の使い方から無菌状態での操作、PCRや次世代シーケンサーの仕組みも教えていただきました。前年度に動画を

(次ページへ続く)

（前ページより）
た。短い時間での発表だったため、簡潔に、かつ伝わるように説明するのは難しかったです。話す文章だけでなく、ポイントで図を指しながら丁寧に説明することを心がけました。例年とは異なり動画を録画しての発表で、何度も録画し直してより良いものを作れた

反面、先生方に聞いてもらい質問を受ける機会がなかったことは少し残念でした。最後に、例年と異なる状況の中、研究室研修を実施してくださったこと、丁寧に指導くださった土岐先生、研究や発表練習においてご協力くださった先生方、心より感謝申し上げます。

優秀賞発表賞を受賞して

医学科四年 伊 東 なつみ
（担当講座：感染生体防御学講座）

この度、数ある中から私の発表を選んでいただき誠にありがとうございました。研究から発表までご指導賜りました、感染生体防御学講座の浅野クリスナ教授、Wei TENG 先生、Phawnee SUBSOMWONG 先生には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。私は、「低酸素下における

ージを活性化する活性があることが分かっています。そのことから、今回発現が増加した*SOX1*は、低酸素下での炎症反応を制御するカンジダの重要な因子であると仮説を立てました。

*Candida albicans*の膜小胞が分泌する免疫制御タンパク」というテーマで研究をさせていただきました。全ての細胞は膜小胞という有機または無機物質を分泌しており、その種類や活性は細胞によって異なります。そこで私たちは既存の研究結果を基に、通常酸素下と比較した低酸素下でのカンジダ膜小胞の免疫反応に注目しました。カンジダ

私が一緒に研究をさせてもらったWei先生は、中国から留学で来ている方でした。そのため、研究の手順や結果の考察を始め、何気ない会話も全て英語で行う必要がありました。私は医学の専門的な英単語はほぼ知らないに等しかったため、初めの数週間はとても苦労しました。しかし、Wei先生は、何度も同じ質問をしても丁寧に根気強く教えて下さいました。一緒に研究させていただいた教授を始めとする講座の方々、どの方ともとても優しく、とても居心地が良い研究室でした。大学の研究室紹介動画にも出演させて頂き、後期の間だけででしたが内容の濃い研究室生活を送りました。

のIL-10産生を有意に増加させました。また、プロテオーム解析の結果、低酸素下で*Sox1*というタンパク質が有意に発現していることが判明しました。既存研究で、クリプトコッカス菌の*Sox1*が*M2*マクロファ

最後に改めまして、この度研究室発表に携わった全ての方々にお礼申し上げます。

令和3年度 ベスト指導医賞表彰式

総合臨床研修センター長 加藤 博之
（総合診療医学講座 教授）

令和三年度のベスト指導医賞の表彰式が、令和四年二月二十四日(木)午前十一時半より、病院長室において行われた。ベスト指導医賞は、クリニカルクラークシップIの臨床実習を終えた五年次学生が自主的に、年間を通じてご指導頂いた各科指導医の先生方の中から投票によって選ぶものである。本年度は投票の結果、ベスト指導医賞に脳神経内科学講座 村上千恵子先生が、優秀指導医賞に産科婦人科 横山美奈子先生と消化器乳腺甲状腺外科 鶴田覚先生が選ばれた。表彰式では五年生代表から表彰状が贈呈され、さらに病院長から副賞が手渡された。令和三年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルスによって翻弄された一



ベスト指導医賞、優秀指導医賞の先生方とともに

年であった。従来であれば本賞の贈呈式は盛大なパーティーとともに行われるベスト研修医賞表彰式と一緒に行われていたが、オミクロン株の蔓延により、感染リスクに配慮して、ベスト研修医賞選考会・表彰式は今回も中止となってしまう。そのような状況下であっても、五年生の臨床実習が関係各方面のご尽力により、ほぼ通年で実施できたこと、また今回受賞された先生方を初め、多くの指導医の先生方に熱心に学生指導に取り組んで頂いたことに改めて感謝申し上げます。令和四年度こそコロナ禍が鎮静化し、ベスト研修医賞・指導医賞の行事が従来どおり盛大に行われることを期待したい。

ベスト指導医賞を受賞して

脳神経内科学講座 准教授 村上 千恵子

二〇二一年度のベスト指導医賞をいただきました。投票してくれた学生の皆さん、ありがとうございます。とてもうれしく思っています。実は、二〇一九年度、二〇二〇年度に続き、三年連続の受賞です。ちよつとびっくりです。

私は、脳神経内科を専門とし、すでにベテランといわれる年齢ではありますが、今でもそうだったのか！と、目から鱗がおちるような思いをしたり、こんな病気は初めて診た！とワクワクしたり、あるいは治療の進歩により、これまでなかなかよくならなかったような病気の患者さんが目覚ましい回復をして感動し

たり、というようなことがちよくちよくあるので、脳神経内科はおもしろいなあと想着、毎日概ね楽しく仕事をしています。でも、学生の皆さんに、脳神経内科のイメージを聞いてみると、だいたい「難しい」とか「すごく苦手です」というネガティブな反応が返ってくる人が多いです。そのため、当科の病棟実習は、「脳神経内科は難しい」というイメージを払拭する」をテーマに掲げています。

当科の実習ポイントは二つあります。ひとつめは、「神経学的診察」です。画像検査などが発達している近頃ですが、神経系の異常

をもっとも鋭敏に反映するのは、診察所見です。診察所見から推測される責任病巣の考察がなければ、いくら検査を繰り返しても診断に至ることはありません。当科の実習では、学生の皆さんに、神経学的診察を繰り返し行ってもらっています。繰り返して診察することにより、神経学的診察手技は、煩雑で難しそうにみえますが、基本的なポイントをおさえておけば、それほど難しくはないということをわかってもらいたいと考えています。

ふたつめは、「代表的な疾患のイメージを確立する」です。患者さんを実際に診察し、教科書を読むだけではピンとこない具体的なイメージをつかむ、これは病棟実習でなければ、経験できない勉強です。一つの疾患のイメージをしっか

り確立することにより、類似した疾患の理解もしやすくなり、徐々に脳神経内科全体のイメージが捉えられるようになることを期待しています。私が大学に着任してから四年目になりました。毎年同じことを繰り返して行っているのですが、マンネリ化しているのではないかと懸念しているところです。二〇二二年度は、なにか新しい工夫ができればいいなあと考えています。学生のみならず、楽しく実習しましょう。お待ちしております。



公益社団法人 青森医学振興会

【沿革】 平成11年3月1日 弘前大学医学部医学科後援会鵬校医学振興会発足（任意団体）
平成13年4月2日 社団法人青森医学振興会設立認可
平成24年4月1日 公益社団法人青森医学振興会へ移行認定

当会では、青森県の医学・医療の発展を促進するため、次の事業活動を行っております。

- 医学教育活動の活性化を図るための事業への支援
- 医学・医療の高度化に資する医学研究事業への支援
- 地域医療の振興に寄与する事業への支援
- 海外との学術交流等の活性化を図るための事業への支援

随時、会員の募集とご寄附を受付しております。
本会の公益目的事業に対する寄附金（会費を含む）は、確定申告をしていただくことにより税制上の優遇措置の対象となります。
会費は下記いずれかの口座へご納入ください。
なお、ご入会をご希望される方は、専用の払込用紙をお送りしますので、お手数ですが当会までご連絡をお願いいたします。

口座名	公益社団法人 青森医学振興会		
口 座	青森銀行 弘前支店	普通	1087485
	みちのく銀行 大学病院前支店	普通	0198579
	ゆうちょ銀行	口座記号番号	02200-4-57580
※青森銀行及びみちのく銀行の分支店並びにゆうちょ銀行（注1）から振込む場合には、別途手数料は発生しません。			
会 費	会員種別	年会費	注1…ゆうちょ銀行では、令和4年1月17日以降に、窓口及びATMにおいて現金で払い込みをする場合には、払込人様が加算料金110円をご負担いただくこととなりますので、ご注意ください。（口座からのお支払いをお勧めします。）
	医学部教員	1万円	
	医学部卒業生等	2万円	
	賛同する個人 賛同する団体	2万円 10万円	

ご寄附については、上記の口座へ振込手数料を差し引いた額をお振込みいただいて差支えありません。

お問い合わせ 公益社団法人青森医学振興会事務局
TEL・FAX 0172-40-2872 E-mail：info@aomori-mpm.jp

優秀指導医賞を頂いて

産科婦人科 助手 横山 美奈子

この度は、このような賞を頂き心から嬉しく思っております。

私が医学部五年生だったのは十年以上前のことでした。産科婦人科の先生も他科の先生も大変にお忙しい中で、その合間に学生指導も頑張って下さっているという印象でした。その一方で学生が患者に接する時間は今に比べると多く、担当した患者さんに感謝の手紙を頂戴したこともありとても充実した実習時間を過ごすことができました。

ここ数年の学生さんは、コロナ禍にあつて授業も実習も数々の制限があり、大変厳しい状況かと思いますが、こうした状況下、どうすれば五年生の皆さんに充実した産科婦人科実習をしてもらえるだろうかと思いに考えた結果、①産科婦人科の魅力の一つである分娩にできるだけ立ち会ってもらおう、②分娩シミュレーションなどの学習器材を最大限活用する、③学生さんにわが子のように接する、という三点を心がけました。

まず①については、ただ分娩を傍観者として見学するのではなく胎児心拍陣痛図モニターや目の前の分娩の進行状況を的確に評価すること、そして産まれてきた赤ちゃんの誕生を産婦さんと共に喜ぶべきことを伝えました。ある時、無事に出産された妊婦さんに向けて学生さん達から自然に拍手が沸き上がり、私にとっても忘れられぬ思い出となりました。

優秀指導医賞を受賞して

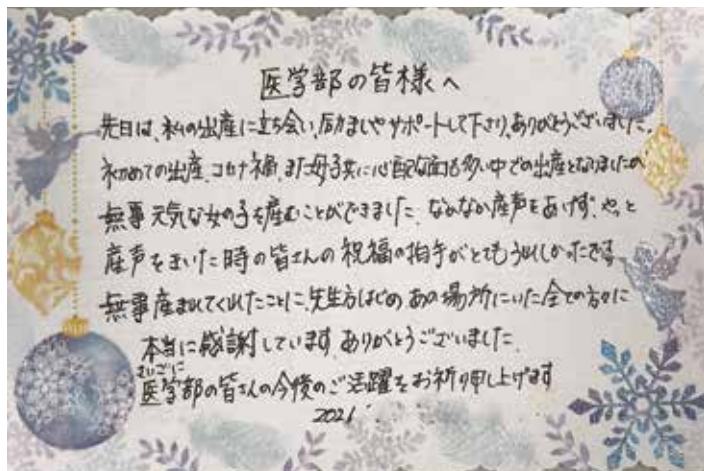
消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科 医員 鶴田 覚

(現 青森県立中央病院外科 医師)

この度は令和三年度優秀指導医賞に選出いただき、学生の皆さんに誠に感謝申し上げます。このような栄えある賞を頂き、大変光栄に感じております。

私が各診療科を五年生の実習生としてローテーションしていた時から、すでに約十年が経過しようとしています。各診療科の先生方から指導を賜り、実臨床での毎日が衝撃的であり、それぞれの診療科の魅力を肌で感じながら実習させていいただきました。私が所属する

人科医として共に働いてほしいと思つて接しております。実習が楽しいと思つてくださった学生さんは、是非実習以外でも声をかけてください。お待ちしております。



る消化器外科科学講座・小児外科学講座の実習でも、外来初診から手術、そして退院に至るまで患者さんにとって最適な治療は何かを当時のスタッフの先生を中心に日々ディスカッションし、実行する姿がとても印象的でした。それは時折あまりの気迫で、当時の私にとって少し恐縮していた部分もあったかもしれませんが、それ以上に「患者さんの命・生活」に向き合い、それを真摯に追い求める姿に、格好良さを感じて、胸を打たれたのを今でも覚えております。

当科の実習では頸部甲状腺、胸部食道から腹部骨盤に至るまで様々な悪性疾患や救急疾患に対する外科手術の他、術前後の外来やベッドサイドでの診察、術前方針決定のためのカンファレンスなどを行っております。学生さんが可能な限り実習生としてではなく「主治医」の一人として診療に携わることができるよう患者さんを担当してもらい、術前の評価から手術、術後の診察に至るまで、共に診療にあたっております。学生さんからは一人の患者さんを診ることの責任の重さや大変さを実感しましたとよく言われますが、その一方で学生さんが私達の気づくことのできなかった患者さんの本音を聞き出してくれたり、患者さんからも学生さんがしてくれたことに対する感謝の声をいただくなど、私達にとっても

おしらせ

書籍の

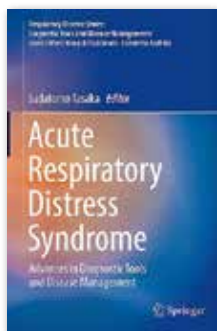
「Acute Respiratory Distress Syndrome」

呼吸器内科学講座

教授 田坂 定智

このたび急性呼吸窮迫症候群（ARDS）に関する英文書籍を刊行しました。ARDSは肺炎や敗血症などに続発する急性呼吸不全であり、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の重症例のほとんどがARDSを合併しています。各章の執筆はARDS診療の第一線で活躍する呼

吸器内科医、集中治療医にお願いし、ARDSの病態や診断、呼吸管理、理学療法などについて最新のエビデンスを網羅しています。またマイクロRNAによる早期診断や幹細胞治療など注目のトピックも取り上げています。執筆をはじめた時期にコロナ禍が始まり、執筆者の多くがその対応で忙殺されてしまったため、予定より大幅に遅れたものの、なんとか刊行にこぎつけることができました。電子書籍で章単位でのダウンロードが可能です (https://link.springer.com/book/10.1007/978-981-16-8371-8)。ご興味のある先生にはご一読いただけますと幸いです。



「10年目で0.8人前の外科医になる道」

呼吸器外科、心臓血管外科

助教 小波 亮介

この度、「10年目で0.8人前の外科医になる道」(メディカ出版)という本を出版しました。医療の世界では、患者さんの命や生活を守るため多くの人が日々奮闘しています。その中で、医師として一人前と言われる、リーダーシップをとれるようになるためには非常に長い年月が必要になります。特に、大学病院では臨床に加え教育・研究それぞれの領域をバランスよくこな

さなければいけません。「自分はまだ半人前だけれどいつかは」と誰もが憧れる一人前ですが、実は半人前と一人前の間にはあまりに大きな壁が立ちばだかります。それを私は「0.8人前の壁」と考えています。

一人前になるという目標はどこか漠然としています、0.8人前になるという目標にはある程度はつきりとした目的地があり、そこに到達するための経路もはつきりとしています。本書では、医師免許取得後10年で大学病院心臓外科（小児グループ）の責任執刀医となった私が、これまでの失敗や反省を振り返りながら、これから一人前を目指していく人たちに最短最速で0.8人前の壁を登りきるためのノウハウを提供します。この本を多くの人に見て頂き、本書の内容が少しでも多くの患者さんを救うきっかけになれば幸いです。



刺激になることも多く、学生さんが実習の中で一人の医師へ成長するその一端を見ている気がして、とても嬉しく感じることもありま

生にとっても厳しい状況だったかと思えます。今後この状況が緩和され、大学病院だけでなく関連病院での実習や初期研修で患者さんに寄り添う外科医としての魅力、そして一人ではなく信頼できる仲間がいる素

晴らしさをより実感してもらえるようになることを願っていますし、私達も一層精進してまいります。そして、外科・消化器外科に興味を持った方は是非仲間となり共に歩んでいきましよう。お待ちしております。



学生だより

一年間を振り返って

一年間を振り返って

医学科二年 長内 駿典

昨年の四月は大学での新生活に期待と不安を抱いていた記憶があります。新型コロナウイルス感染症防止対策を行いながらの大学生活は、思い描いていた大学生活よりも大変でした。部活動のイベントが延期・中止になったり例年より規模を縮小したりしたことは残念でした。また、対面からオンライン授業に切り替わった時、学生側も慣れないシステムに四苦八苦しましたが、学びを継続できたのは先生方やたくさんの方のおかげであると深く感謝しています。教養教育科目では様々な分野に触れることで自分の興味や将来についての視野が広まり、また医学科以外の人と交流する良い機会になりました。専門科目が始まってからは覚える知識の量に圧倒されていることが将来患者さんへの治療に活きてくる、上の学年で学んでいく科目の基礎になると考えると、勉強にさらに身が入りました。特に大変だったのが生化学と組織学で、高校で生物を履修していない私にとっては、高校生物の範囲のような単語すらも最初は難しく感じました。組織学では、講義で習った知識を実際の組織像と結びつけて覚えるのが難

一年間を振り返って

医学科二年 加賀沢 凜

大学一年生として過ごした去年を振り返りたいと思います。前期は教養科目をたくさん履修し、頻繁に文京町キャンパスに通う日々でした。特に印象に残ったのは踊りのワークショップです。毎回、決められたお題に沿ってランダムに構成されたグループで踊りを作りました。踊ることの難しさと感じると同時に、他学部の学生との交流ができてとても有意義な時間になりました。その他にも社会学や哲学など、普段の生活で役に立つ思考を身に着けることができました。また、空きコマにはよくEnglish Loungeを訪れ、留学生とのコミュニケーションを通じて、様々な価値観の人がいることも学びました。特にブライアン先生のセミナーには毎回参加し、視覚的なアプローチ、

関連病院勤務報告

地域の病院で研修して

三沢市立三沢病院 小児科 湯沢 健太郎

いうことを再認識します。普段の勉強や試験勉強、様々な悩み相談など、自分一人だけでは決して乗り越えられなかったと思います。私はゴルフ部に入部し、頼れる同期や先輩に恵まれて充実した活動を送ることができています。去年は東医体が行われなかったため、今年こそは参加出来たらなと思います。また、先輩方にはゴルフ初心者の私に優しく指導していただき、試験や勉強のアドバイスなどを多々頂いたりしました。二年生からは解剖学や生理学など学ぶ内容も更に濃くなるので、これまで以上に勉強に励みたいと思います。

地域の病院で研修して

三沢市立三沢病院 小児科 湯沢 健太郎

私は、青森高校出身で、平成二十四年に弘前大学を卒業しました。今年で医師生活十一年目になります。青森市民病院での初期研修を終え、同病院で小児科医としてのスタートを切りました。医師五年目には弘前大学医学部附属病院小児科で血液、心臓、神経、腎臓と各グループのローテーション研修をしました。その後、八戸市立市民病院で一年間NICU管理などを学び、大学院のため弘前へ戻りました。多くの先輩方にご指導いただき、小児科専門医と学位を取得することができました。現在、三沢市立三沢病院で勤務して三年目になります。

三沢病院は上十三地区の医療の中核を担う病院で、前期よりも時間があつたので、部活やアルバイト、学生団体に時間を割くことができました。特に学生団体では同じ興味を持った仲間とインスタグラムでの発信活動や、トークイベントの開催、地元との交流会など、沢山の貴重な体験をしました。振り返ると、今までやりたかったことを思い切り楽しめた一年間でした。二年生になりスケジュールもハードになりましたが、自分のやることに意思をもって取り組んでいきたいです。



小児科は希少な疾患も多く、範囲も多岐に渡り、本当の意味で一人前になるには果てしない道程です。市中病院で求められる技術や経験、NICUでの新生児管理、大学病院が担う重症者の集中治療など、様々な場所での研鑽を積み重ねていく必要があります。私にとって、三沢病院での診療経験は、小児科医として大きく成長するための大切な時間だと感じています。今後はサブスペシャリティ領域でさらに精進していきます。平成三十年から新専門医制度が全国的にスタートしました。弘前大学小

地域の病院で研修して

青森市民病院 泌尿器科 小玉 寛健



児科では、初期研修が終了した後の三年間で、一般診療・NICU研修・大学病院での専門グループ研修を経験し、専門医試験の受験資格が得られるようにプログラムを組んでいます。有難いことに、近年は小児科を志望してくれる後輩たちが少しずつ増えており、仕事と家庭を両立しながらも、それぞれがキャリア形成できるような環境づくりも当科の課題になってくると感じます。コロナ禍となり、国内の移動でさえ困難な状況が続いています。国内・海外留学が活発に行われる時代が来ることを切に願います。

医師八年目、泌尿器科の小玉寛健と申します。私は秋田県出身で、一般入試で弘前大学に入學し、初期研修を宮城県で行いました。志望科は臨床実習でロボット手術や腎移植、内視鏡的治療や透視など、幅広い経験ができる診療科だということを実感したことから、泌尿器科を考えていたので、泌尿器科と外科を中心に回りました。

先生方との出会いの中で、泌尿器科指導医の先生が手術、病棟や外来、透視など何でもスマートにこなしており、その姿が当時とても印象的でした。

自分の未熟さに打ちひしがれる日も多々あります。それでも尚、未来ある子供たちの笑顔に勇気づけられ、仲間や家族に背中を押してもらいながら、なんとか仕事をさせていたと思っています。小児科医になったことに後悔はありません。この記事を最後まで読んでいただいたみなさんに心から感謝いたします。一緒に働ける日を心待ちにしています。

より一層、泌尿器科の魅力を実感していた頃、弘前大学泌尿器科の先生方の国内外での活躍や、年の近い先生たちがとても楽しそうにしていたこともあり、母校の弘前大学に戻って泌尿器科医として働くことを決めました。入局後は大学病院をはじめ各地の中核病院を回り、手術や外来などの泌尿器科医としてのスキルを学びました。専門医を取得した現在、癌治療や腎移植を中心に従事しています。青森県内は医師が少なく、忙しい時期もあり、忙しすぎる時期もあります。しかしそのぶん自分の年次ではなかなか経験できない症例や手術ができるという点では非常に強みだと思っています。

また、四季折々の風景や環境は、子育てに向いていると思います。自然が豊かなことは子供たちの心の成長の過程でとても大事です。山々や風景に驚きや興奮を見せられる子供の反応を見るのが日常の楽しみです。私自身も学生の頃には知らなかった青森の魅力を実感している頃です。私がみなさんに大事にしてもらいたいのは「一人との出会い」です。

県内に残る・残らないというのはみなさんの自由です。自分にとって魅力的な診療科を選ぶのと同様、県内で働くことに魅力を感じたらぜひ我々と一緒に働きましょう。

そのためには、できるだけ色々な先生の話を聞いてみてください。その中で「あの先生と一緒に働きたい!」「自分もここでこれをやってみよう」という気持ちが生まれたら青森県内で勤務する、という意味合いが変わってくると思います。

我々も頑張ります。一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。

研修留学だより

沖縄県立中部病院 消化器・一般外科
千田 航平
(現むつ総合病院外科 医師)

沖縄県立中部病院で初期研修二年間、外科後期研修を一年間終えた後に、二〇二一年四月から二〇二一年九月までの半年間、弘前大学消化器外科で研修させて頂きました、平成三十年信州大学卒の千田航平と申します。

日本全国における高齢化に伴い、外科疾患の病態も複雑になっていくこれから時代には、内科疾患・外科疾患を問わずあらゆる病気の対応ができる総合力のある医師が必要であり、医師としての基礎を身に付ける上では、沖縄県立中部病院での研修は非常に充実していました。しかし、Generalistでありながらも、Specialistも同時に目指す必要があると感じていた外科後期研修中に、弘前大学病院で半年間研修をさせて頂いただけのプログラムが発

研修留学だより

沖縄県立中部病院 消化器・一般外科
三枝 義尚

沖縄県立八重山病院、外科の三枝義尚(さえぎさよし)と申します。西の「ヒロダイ」こと広島大学を二〇一八年に卒業し、沖縄県立中部病院で初期臨床研修を行いました。引き

で研修を行いたいと考え、弘前大学外科専門医プログラムに応募しました。沖縄県立中部病院は弘前大学消化器外科の袴田健一教授が臨床研修を行った縁もあり、同プログラムの関連病院の一つであります。私は沖縄県立病院で主に研修を行い、二〇二一年十月より半年間、弘前大学消化器外科にて研修を行いました。消化器外科では、上部消化管グループと肝胆膵グループで研修しました。沖縄のピロリ菌の遺伝型は胃がん発症率が低いと言われており、胃がんの症例が少ないです。青森は沖縄と比べて胃がんの症例数が多く、術者経験も含めて多数の症例に出会うことができました。肝胆膵グループでは、肝切除の術者を含め多くの手術に術者や第一助手として参加し、手術に対する戦略や手技を学ぶことができました。大学病院での診療以外にも、当直で地域の関連病院に行くこともあり、限られた人的・物的資源しかない環境でCPAや脳出血など重症例を経験するなど、消化器外科領域にとらわれず多くのことを

を学べました。プライベートも、一シーズンで十回近くスノーボードに行くなど充実しておりましたが、最高気温が氷点下という極限環境は西日本生まれの私にとっては些か厳しいものがありました。弘前での研修を終えて、現在は沖縄県の石垣島にある沖縄県立八重山病院で勤務しております。後期研修の締めくくりとして、主治医として独立して診療にあたっています。困難な症例もありますが、弘前で学んだ経験が活かされています。また、弘前の皆さんとのつながりは私の今後の医師人生にとって貴重な財産となりました。場所が違えば医療も違います。これまで異なった環境で医療を行ってきた者同士だからこそできたDiscussionもあつたと思います。青森での出会いに感謝しつつ、これからも外科医として頑張っていきたいと思っています。

留学だより

足するというお話があり、定型化された悪性腫瘍の手術やロボット手術などを経験できるこの上ないチャンスだと感じ、研修を希望させて頂いたできました。

大学病院で過ごした半年間は、まさに異文化交流の日でした。日々、新しいことを学び、物事を様々な角度で見ること、自分の視野が広がり、将来の理想とする外科医のイメージも変化したように思います。グローバル化が進み、情報の収集と発信も英語で行うことが必要になってくる時代に対応できるよう、弘前大学消化器外科では術前カンファレンスをNativeの先生と共に進めており、非常に力が付きました。また、臨床をやっている時代を少しでも前に押し進める医学研究を行なっていく重要性を肌で感じましたし、手術を一例一例丁寧に予習し振り返る消化器外科の皆様の背中を見て、自分もこうなりたいと素直に思いました。何より、高難度手術を合併症なく終える上級医の先生方がたくさんいることが嬉しかったです。

二〇二二年四月から一年間、むつ総合病院で外科専攻医として勤務させて頂いております。



英語の術前カンファレンスで発表する筆者



英語の術前カンファレンスで発表する筆者



せせらぎ温泉

湯：弘前市原ヶ平・二十三時迄
返：弘前市内で気軽に足を運べる含鉄の温泉で、千年から南中学校への道路から南に入っただけにありまます。褐色調のナトリウム・塩化物・硫酸塩泉で、熱湯から少し温めの露天風呂までいくつかの浴槽があるため、好みに応じて鉄成分を堪能できます。

温泉の成分・特徴・適応症	
成分	ナトリウム・塩化物・硫酸塩
特徴	褐色調、熱湯
適応症	皮膚病、関節痛、神経痛、腰痛、肩こり、冷え性、貧血、鉄欠乏性貧血、鉄中毒、鉄アレルギー、鉄アレルギー性鼻炎、鉄アレルギー性気管支炎、鉄アレルギー性結膜炎、鉄アレルギー性皮膚炎、鉄アレルギー性鼻炎、鉄アレルギー性気管支炎、鉄アレルギー性結膜炎、鉄アレルギー性皮膚炎

小赤沢温泉・泉質等表示が木製版で貴重



白馬龍神温泉・棚田に沈着した温泉析出成分

青森 あずまし 温泉紀行

33

鬼島 宏
(病理生命科学講座・教授)

不老不死温泉
せせらぎ温泉
おおびらき温泉
向根子橋温泉
(はたけのゆつ)



小赤沢温泉(長野県栄村)

湯：弘前市原ヶ平・二十三時迄
返：弘前市内で気軽に足を運べる含鉄の温泉で、千年から南中学校への道路から南に入っただけにありまます。褐色調のナトリウム・塩化物・硫酸塩泉で、熱湯から少し温めの露天風呂までいくつかの浴槽があるため、好みに応じて鉄成分を堪能できます。

これまでに紹介した温泉の中でも、白馬龍神温泉(医学部ウォーカー第六十九号：第二湯)、熊の湯温泉(ウォーカー第八十九号：第八十四湯)、相乗温泉と矢立峠温泉(ウォーカー第九十四号：第一湯と県外第十八湯など多々あります。含鉄温泉の魅力は是非とも堪能してください。

湯：弘前市原ヶ平・二十三時迄
返：弘前市内で気軽に足を運べる含鉄の温泉で、千年から南中学校への道路から南に入っただけにありまます。褐色調のナトリウム・塩化物・硫酸塩泉で、熱湯から少し温めの露天風呂までいくつかの浴槽があるため、好みに応じて鉄成分を堪能できます。

これまでに紹介した温泉の中でも、白馬龍神温泉(医学部ウォーカー第六十九号：第二湯)、熊の湯温泉(ウォーカー第八十九号：第八十四湯)、相乗温泉と矢立峠温泉(ウォーカー第九十四号：第一湯と県外第十八湯など多々あります。含鉄温泉の魅力は是非とも堪能してください。

湯：弘前市原ヶ平・二十三時迄
返：弘前市内で気軽に足を運べる含鉄の温泉で、千年から南中学校への道路から南に入っただけにありまます。褐色調のナトリウム・塩化物・硫酸塩泉で、熱湯から少し温めの露天風呂までいくつかの浴槽があるため、好みに応じて鉄成分を堪能できます。

これまでに紹介した温泉の中でも、白馬龍神温泉(医学部ウォーカー第六十九号：第二湯)、熊の湯温泉(ウォーカー第八十九号：第八十四湯)、相乗温泉と矢立峠温泉(ウォーカー第九十四号：第一湯と県外第十八湯など多々あります。含鉄温泉の魅力は是非とも堪能してください。

湯：弘前市原ヶ平・二十三時迄
返：弘前市内で気軽に足を運べる含鉄の温泉で、千年から南中学校への道路から南に入っただけにありまます。褐色調のナトリウム・塩化物・硫酸塩泉で、熱湯から少し温めの露天風呂までいくつかの浴槽があるため、好みに応じて鉄成分を堪能できます。

これまでに紹介した温泉の中でも、白馬龍神温泉(医学部ウォーカー第六十九号：第二湯)、熊の湯温泉(ウォーカー第八十九号：第八十四湯)、相乗温泉と矢立峠温泉(ウォーカー第九十四号：第一湯と県外第十八湯など多々あります。含鉄温泉の魅力は是非とも堪能してください。

若手教員・医師だより

腎臓内科医として

循環器腎臓内科学講座 助教 金城 育代

今回はこのような機会を与えていただき、大変恐縮に思っております。私は現在循環器腎臓内科学講座の腎臓内科学を専門としております。少しですが私の自己紹介をさせていただきます。私は弘前高校、聖マリアンナ医科大学出身で、初期研修から弘前へ戻ってまいりました。高校時代は、地元が遠方であることから新寺町に下宿生活をしていました。大学生の頃から興味があった分野は、血液内科学、膠原病免疫、腎臓内科学などでした。特に腎臓内科においては学会に連れて行っていたり、病理のセミナーに参加させていただいたり興味を持ちやすい環境でした。初期研修は地元で働くにあたり様々な科が揃っている大学病院での初期研



修を選びました。特に腎臓内科は関東と比べて圧倒的な専門医の数の少なさに驚くのと同時に、島田美智子先生より青森県で数少ない女性腎臓内科専門医になりました。というお誘いをもとにも魅力的に感じ、入局を決めさせていただきました。入局してからも、ケースレポートや、海外での学会発表、東北女性腎臓内科医の会での活動、大学院での基礎研究など様々なことをさせていただき、感謝しております。また、家庭面では現在二歳の息子の育児に追われる毎日、常に急変対応や予測指示の連続で頭がフル回転です。子供が産まれてから自分がまだまだ未熟であると感じることが多く、子供に育てられていると感じる日々です。海外の子育では「Don't」で

脳神経内科学講座

脳神経内科学講座 教授 富山 誠彦

我ら発展途上人

脳神経内科学講座のルーツは、旧第三内科（現在の

内分泌代謝内科学講座）にあります。第三内科開講時に松永宗雄先生が九州大学から戻られ神経グループとして出発、その後松永先生が脳卒中研究施設（現脳神経血管病態研究施設）に新設された神経内科部門の教授となり（現在の社会医学講座のある建物に講座はありましたが）、私たち神経グ

ループは臨床は第三内科、研究は神経内科部門で行なっていました。二〇〇五年に神経内科が診療科として院内に設置され（当時医師は七人）、二〇〇七年に東海林幹夫教授が赴任し、名実共に脳神経内科学講座として出発しています。二〇一九年に東海林先生が退職されたのと同時に富山が

た。回診をする、医師が四人なのに、学生が十人もいました。講義も学外講師は依頼せず、自前で行いました。負担ではありましたが、講義と実習は神経学の楽しさを学生に伝える貴重な機会でもあり、私たち自身も楽しみながら勉強させてもらっています。

り始め、初めての学位論文もまとまりつつあります。研究は私どもの科だけでできるものではなく、様々な講座の先生の力をお借りしながら、進めています。この場を借りて感謝申し上げます。また、特筆すべきことに、今春、一人カナダに留学しました。人間的には厳しいですが、きっとその苦しさは勝るものを持ち帰って来てくれるに違いありません。

今年当科の医師が八人になったと書きました。人口構成を見ると、二十代三人、三十代二人、四十代以上が各年代一人ずつ三人で、極端な発展途上国の年代構成です。まさに「我ら発展途上人！」。

研究室紹介



は「Let's」で常に子供に話しかけるようにです。ついついこれはダメ、と言ってしまうですが、ポジティブな言葉に言い換える努力をしようと思っています。これは患者さんに説明するときにもきつと役立つことで、これはダメというより、何何してみましようという最近の言い換えのよう



医学医療情報学講座

臨床試験管理センター 准教授

松坂 方士 (医療情報部 副部長)

医学医療情報学講座は、大学院重点化に伴って附属病院医療情報部が母体となつて誕生した比較的新しい講座です。構成員は佐々木賀広教授、田中里奈助教の二名ですが、附属病院臨床試験管理センター准教授の松坂も加わり、三名で診療支援や教育、研究などに取り組んでいます。

教育

医学医療情報学講座はシステム運用やデータ管理が専門ですが、それによって蓄積されるデータの解析にも力を入れています。研究室研修（医学科専門教育）では、医療情報システムから抽出したデータや院内が

診療支援

医学医療情報学講座の活動の目的は、医療情報システムの改修や新規機能の開発、導入などを通じて、附属病院での診療を支援することです。具体的には、こ

れまで医療情報システムと他部門システムとの情報連携によるオーダー等の簡略化、放射線読影レポート未読判別機能などの構築による医療安全の強化、診療報酬改訂への対応や医事会計システムの改善などを行ってきました。また、情報通信技術の進展によって他の医療機関の電子カルテとの連携が実現し、紹介・逆紹介の簡略化や施設をまたいだシームレスな診療が可能になりました。医学医療情報学講座ではこれらのシステムを総合的に調整し、他部門システムとの連携を実現し、院内の教職員に効率

近流行の real world data analysis の初歩です。ただ、(次ページへ続く)



(前ページより)
real world data はよく嘘をつきます。研究室研修では、そのような嘘に対応するための基本的知識も習得してもらいたいと考えています。

研究
人工知能 (AI, artificial intelligence) の基礎的な技術である機械学習 (machine learning) によるデータ解析を進めています。これまでも、他の診療科との共同研究として内視鏡画像やCT画像などを機械学習によって解析し、国際誌に複数の論文が掲載されてきました。今後はこの技術を活用して、ICUでのチューブ

自己抜去の防止や外来での問診サポートによる診断補助など、診療支援につなげたいと考えています。

また、医学医療情報学講座では、全国がん登録データによるがん疫学研究も行っています。青森県では毎年一三〇〇以上のがん症例が診断されていますが、その情報は全国がん登録システムによって蓄積されています。がん疫学研究にとっては症例数もデータの質も申し分なく、今後、トップジャーナルに掲載されるような論文を目指して研究を進めたいと思います。



総合診療医学講座・総合診療部スタッフ一同

総合診療医学講座

総合診療医学講座 教授 加藤 博之

私が附属病院総合診療部の初代教授として本学に赴任したのは、新臨床研修制度が開始された二〇〇四年のことです。同時に卒後臨床研修センター長 (現、総合臨床研修センター長) も拝命し、以来、卒前卒後の教育に広く携わって参りました。卒前教育では、横断的な科目を担当することが多く、特に一年次「臨床医学入門」、四年次「臨床実

習入門」、「Pre クリニカルクラッシュ」、「OSCE」、六年次「Post OCOSCE」等では、学内外の皆様には大変お世話になってます。卒後教育では、初期研修プログラムの広報・運営、専門研修プログラムや専攻医への支援業務に携わっております。診療面では附属病院総合診療部外来を担当し、ご紹介頂いた原因臓器の推定が必ずしも容易でない症状の患者さん等を中心に診療を行なっています。ここでも多くの皆様のお力添えを頂いていることに改めて感謝申し上げます。

講座としては二〇〇七年に大学院医学研究科に設置された総合診療医学講座の教授を拝命し、更に二〇一六年には県の寄附講座である総合地域医療推進学講座の教授も兼任し、現在に至っています。現在の当講座スタッフの陣容は、総合の各名に恥じず、大変多

様性に富んでいます。全員総合診療医学を専門としているのはもちろんですが、私は老年医学・救急医学・医学教育などに長年携わって参りましたし、大沢弘診療教授は腎臓内科学と内科学全般を、米田博輝講師は地域医療学とEBMを、松谷秀哉講師は理学修士で医療情報システムを、本年三月広報誌ヒロマガでも紹介頂いた小林只学内講師 (一級知財技師) は産学連携活動を、穂元崇助教は地域医療学と整形外科学を得意分野としています。研究・開発面での具体的テーマも、遠隔医療、皮下輸液用デバイス、新規輸液製剤、携帯型超音波診断装置、教育シミュレータ、新テクノロジー現場投入時の阻害因子、患者の自己診断の精

度、地域で奮闘する医療者の自尊心、研究者の知的財産教育など多様なテーマに取り組んでいます。地域医療機関に勤務する大学院生や後期研修医へも、地域医療の現場で遭遇した課題を解決するべく、共感をもつて活動支援・研究指導に努めています。

現在、少子高齢化の進行、COVID-19の蔓延、激動の国際情勢など、われわれ医師に直接・間接に関係する社会的課題は増え続けており、その対応策も地域医療構想の推進、医師の働き方改革、新専門医制度 (総合診療専門医を含む) など複雑化しています。優れた人材の育成はもちろんですが、多様な個性・技能の発展とその融合、テクノロジーの活用、個の事情に応じた働き方へのサポート等がより一層求められるようになりました。当講座は、「世界に発信し、地域と共に創造する」という本学のスローガンの通り、地域で培った経験を基礎にした多様なスタッフの相乗効果により、本学・本県の発展に貢献できるよう微力ながら尽力して参ります。



写真コラム (16) 一戸時計店

脳血管病態学講座
教授 今 泉 忠 淳

弘前市の土手町通りのランドマーク的な建物に一戸時計店があります。一戸時計店の建物は、1989年【写真1】と、2021年【写真2】でほとんど変わっていません。実験で、様々な反応をする時に、時間を測る必要がある場合があります。最近ではキッチンタイマーのような電池式のタイマーを使うことが多いのですが、私達の講座には、昭和の時代からゼンマイ式のストップウォッチ【写真3】があり、現在も使っています。以前、このストップウォッチが故障した時に、一戸時計店に持って行って修理してもらいました。その後、この時に修理してくれたご主人は亡くなり、時計屋さんは残念ながら閉店してしまいました。現在の一戸



【写真1】一戸時計店。1989



【写真2】一戸時計店。2021



【写真3】ゼンマイ式ストップウォッチ。2022

時計店の建物は、商店街の組合が管理しているそうです。2021年11月に、「Hirosaki Art Pollination」という展覧会があり、その時に、この一戸時計店も作品展示の会場となりました。この時に店の裏の部屋まで見ることができ、とても興味深かったです。これからも、この建物が保存され、活用されることを願っています。

部活動紹介

医学部 剣道部

剣道部代表 医学科四年 橋本大空

顧問・役員
部長…中村和彦
(神経精神医学講座教授)
主将…橋本大空
(医学科四年)
副主将…中村風然
(医学科三年)
主務…廣瀬菜乃花
(保健学科三年)
会計…姉帯優
(保健学科二年)
略歴
大正十年旧制官立弘前高

等学校と同時に創立され、以来旧制弘前高校百六十一名、新制弘前大学四百名にも上る卒業生を輩出しています。その活気は新制大学となってもなお引き継がれ、部は『磨吹毛』の下に、日々、稽古で汗を流しています。
令和三年大会成績
新型コロナウイルスの影響で大会はありませんでした。



私たち医学部剣道部は令和四年度現在、医学科十七名、保健学科七名の総勢二十四名で活動しています。練習は水曜日の午後六時半から七時半と土曜日の午前九時から十一時の週二回です。医学部練習のほかに全学剣道部が週五回練習を行っており、自分のペースで参加することもできます。全学の練習ではインカレ経験者などのレベルが高く強い相手とも稽古ができます。練習以外でもたくさんの方の行事を全学剣道部と合同で行うので医学部内でもどまっていまいがちな交友関係も広がります。

近年では嬉しいことに、初心者への入部が多く、部員全体でフォローしながら切磋琢磨する体制になりつつあります。ここ数年の成績低迷を打開すべく、全員の未経験者が試合で活躍できる事を部全体の目標とし、基礎の基礎から丁寧に稽古しています。今年は弘前大学が東医体の主幹校です。そして、長い間揃わなかった団体戦の人数が揃いました。また、十月にある看護大会でも、人数が多く、非常に濃い練習ができますので、部員一同、より一層気合が入っています。経験者はもちろん、未経験者やマネージャー希望など剣道に少しでも興味のある方は気軽に道場まで足を運んでください。剣道部で真の文武両道を一緒に目指しましょう！

練習場所…文京町キャンパス 武道場

練習時間…水曜日 午後六時半～七時半

土曜日 午前九時～十一時(全学と合同練習)

連絡先

med_kendo@yahoo.co.jp

医学部空手道部

空手道部代表 医学科四年 田茂舞子

医学部空手道部は現在男子五名、女子九名が所属しています。人数は少ない部活ですが、普段は文京町キャンパスにある弘前大学の武道館で全学の空手道部と一緒に鍛錬に励んでいます。医学部以外の生徒も含めた空手部全体では四十名以上が在籍しており、多くの刺激を受けて切磋琢磨できる環境にあります。また、近年は日本の文化に興味を持ってくれた留学生の皆さんが入部してくれることも増え、練習以外の面でも様々な刺激を受けることが出ています。練習は全学の空手道部として月曜日

から金曜日までの週五回行っていて、医学部空手道部としては勉強や各々の予定と相談しながら週三回練習に参加することを目標としています。

多くの部員が大学から始めた初心者ですが、丁寧に基礎から教えてくださる監督や先輩方がいらっしゃる中で、練習に励むことで一年生のうちから良い成績を残す部員や、四年生で個人戦準優勝される先輩もいらっしゃいました。また、日々練習に励むことにより一年ほどで多くの部員が黒帯となります。

一年の中で私達が目標としている大会は五月に行われる北医体、八月に行われる東医体、十一月に行われる女医体があります。医学部空手道部としてはこの三つの大会が主ですが、参加する意欲があれば、全学の大会にも出ることが出来ます。全学の大会は医学部の大会よりも多く、より多くの選手と戦うことでさらに高いレベルを目指すことが出来ます。

ここ数年は新型コロナウイルス

Medical Cool Quartet

Medical Cool Quartet代表 医学科三年 古川詩央吏

M.C.Q (Medical Cool Quartet) は本町キャンパスに部室を構えて活動する全学の軽音サークルです。

週一回の部会以外は、基本的に自由に部室の予約を取り、そこで練習を行っています。現在約七十人のサー



クル員が所属しており、その半分程度が医学部生となっています。今年の新生も十人以上が入部してくれました。

M.C.Qでは、本町キャンパスの大集会室や弘前市内のライブハウスで、月一回程度でライブを開催しています。基本的に夕方から夜にかけて、本番三～四時間程度でライブを開催します。写真は今年の四月三十日・五月一日に大集会室で行ったP.Aライブ(新歓ライブ)の様子です。二日間を通して多くの新入生の方が観客として参加して下さい、ライブは大成を収める事ができました。

イルス流行のため東医体が開催されていませんが三年前の東医体では先輩方が男女総合優勝という輝かしい成績を収められました。開催されず悔しい思いをしましたが、来年は開催されることを信じて、大会に出られなかった間の練習の成果を存分に発揮し、より良い成績を収めることが出来るようこれからも鍛錬に励んでいきます。

間を通して多くの新入生の方が観客として参加して下さい、ライブは大成を収める事ができました。

を練習できる環境が整っており、大学から新しく楽器を始めた方も多くいます。経験したことがない楽器でも、先輩や同期から教えて貰う事で段々と弾けるようになるので楽しく練習出来ています。



コロナ禍で去年までは一般の方のライブ参加が出来ませんでしたが、今年から徐々に観客を入れてライブを行う予定です。各種SNSなどにてライブの告知も行いますので、是非ライブを観に来て頂けると嬉しいです。

Twitter: @mcqmcqmcy
Instagram: mcq_hirosaki

人事異動 (R4.3.1 ~ R4.5.31)

●医学研究科所属

【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R4.4.1	保健学研究科 心理支援科学科	教授	齊藤 まなぶ	神経精神医学講座 准教授
R4.4.1	神経精神医学講座	准教授	富田 哲	神経科精神科 講師
R4.4.1	地域侵襲制御医学講座	准教授	木村 太	麻酔科 講師
R4.4.1	心臓血管病先進治療学講座	准教授	横山 公章	循環器内科、腎臓内科 講師
R4.4.1	形成外科学講座	講師	齋藤 百合子	形成外科学講座 助教
R4.4.1	むつ下北地域医療学講座	講師	藤田 尚紀	泌尿器科学講座 助教
R4.4.1	脳卒中・血管内科学講座	講師	澁谷 修司	循環器腎臓内科学講座 助教
R4.5.1	被災医療連携推進機構 災害被災医療教育センター	教授	伊藤 勝博	救急・災害医学講座 准教授
R4.5.1	神経精神医学講座	助教	長田 真人	神経精神医学講座 助手

【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R4.4.1	産科婦人科学講座	講師	重藤 龍比古	青森県立中央病院
R4.4.1	内分泌代謝内科学講座	助教	水尻 諭	内分泌内科、糖尿病代謝内科 医員
R4.4.1	小児科学講座	助教	小林 明恵	小児科 医員
R4.4.1	泌尿器科学講座	助教	野呂 大輔	むつ総合病院
R4.4.1	産科婦人科学講座	助教	水沼 慎人	大館市立総合病院
R4.4.1	形成外科学講座	助教	飯田 圭一郎	形成外科 医員
R4.4.1	健康未来イノベーションセンター	特任助教	徳田 糸代	オーラルヘルスケア学講座 助教
R4.4.1	ウォーターヘルスサイエンス講座	特任助教	古元 義	サントリー食品インターナショナル株式会社
R4.4.1	病理生命科学講座	助手	久保田 隼介	国立療養所松丘保養園
R4.4.1	法医学講座	助手	對馬 好	つがる総合病院
R4.4.1	循環器腎臓内科学講座	助手	加藤 和史	青森市民病院
R4.4.1	神経精神医学講座	助手	長田 真人	神戸市医師会付属看護専門学校
R4.4.1	胸部心臓血管外科学講座	助手	今村 優紀	岩手医科大学附属病院
R4.4.1	皮膚科学講座	助手	古川 和仁	皮膚科 医員
R4.4.1	脳血管病態学講座	助手	田中 佑典	青森県立中央病院
R4.4.1	脳神経内科学講座	助手	木下 郁	脳神経内科 医員
R4.4.1	地域救急医療学講座	助手	猿田 賢也	整形外科 医員
R4.4.1	健康未来イノベーションセンター	特任助手	杉村 嘉邦	フロー健康科学講座 助手
R4.5.1	脳神経外科学講座	教授	齊藤 敦志	仙台医療センター脳神経外科
R4.5.1	ゲノム生化学講座	特任助教	畑 貴之	京都府立大学
R4.5.1	社会医学講座	助手	楊 一馳	北海道大学大学院医学院

【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R4.4.1	整形外科科学講座	助教	浅利 享	整形外科 助教
R4.4.1	産科婦人科学講座	助教	洲之上 康平	産科婦人科 助教
R4.4.1	総合地域医療推進学講座	助教	外山 佑一	高度救命救急センター 助教
R4.4.1	救急・災害医学講座	助手	高島 陵	麻酔科 助手
R4.5.1	胸部心臓血管外科学講座	助手	田口 亮	高度救命救急センター 助手

【配置変更】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R4.4.1	救急・災害医学講座	准教授	横田 貴志	心臓血管病先進治療学講座 准教授
R4.4.1	大館・北秋田地域医療推進学講座	助教	飯野 香理	産科婦人科学講座 助教
R4.4.1	総合地域医療推進学講座	助手	村井 康久	地域救急医療学講座 助手
R4.5.1	メタボロミクスイノベーション学講座	講師	二階堂 義和	フレイル予防学研究講座 講師

【任期満了】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R4.3.31	アクティブライフプロモーション学研究講座	特任准教授	安川 拓次	
R4.3.31	オーラルヘルスケア学講座	助教	徳田 糸代	健康未来イノベーションセンター 特任助教
R4.3.31	子どものこころの発達研究センター	特任助教	三上 珠希	保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域 助教
R4.3.31	子どものこころの発達研究センター	特任助教	森 裕幸	帝京平成大学
R4.3.31	ウォーターヘルスサイエンス講座	特任助教	野中 翔太	サントリー食品インターナショナル株式会社
R4.3.31	地域救急医療学講座	助手	熊原 遼太郎	青森労災病院
R4.3.31	フロー健康科学講座	助手	杉村 嘉邦	健康未来イノベーションセンター 特任助手
R4.4.30	フレイル予防学研究講座	助教	和田 啓二	未定

【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R4.3.31	小児科学講座	准教授	佐々木 伸也	つがる総合病院
R4.3.31	産科婦人科学講座	准教授	二神 真行	東京医科大学
R4.3.31	健康と美 医科学講座	准教授	神田 晃	青森県立保健大学
R4.3.31	形成外科学講座	講師	横井 克憲	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.3.31	大館・北秋田地域医療推進学講座	講師	三浦 理絵	青森県立中央病院
R4.3.31	内分泌代謝内科学講座	助教	松村 功貴	大館市立総合病院
R4.3.31	整形外科科学講座	助教	佐々木 規博	青森市民病院
R4.3.31	皮膚科学講座	助教	松井 彰伸	エールホームクリニック
R4.3.31	救急・災害医学講座	助教	須郷 由希	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.3.31	総合地域医療推進学講座	助教	木村 嘉宏	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.3.31	病理生命科学講座	助手	小笠原 宏一	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.3.31	脳血管病態学講座	助手	唐沢 貴生	青森県立中央病院
R4.5.31	地域救急医療学講座	助手	猿田 賢也	特定医療法人 誠仁会 尾野病院

臨床教授・臨床准教授新規称号付与者名簿 (令和4年4月1日付)

称 号 名	氏 名	現 職 名	称号付与期間
臨床教授	中山 義人	八戸市立市民病院 第一外科医長	2022年4月1日 ～2025年3月31日
臨床教授	佐々木 知行	弘前記念病院 理事長兼院長	2022年4月1日 ～2025年3月31日
臨床教授	中島 康爾	独立行政法人国立病院機構 弘前総合医療センター 皮膚科医長	2022年4月1日 ～2025年3月31日
臨床教授	横井 克憲	独立行政法人国立病院機構 弘前総合医療センター 形成外科医長	2022年4月1日 ～2025年3月31日
臨床准教授	岩城 弘隆	八戸市立市民病院 第二精神神経科部長	2022年4月1日 ～2025年3月31日

●附属病院所属

【昇任】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前 所 属
R4.4.1	消化器内科、血液内科、膠原病内科	講師	鎌田 耕輔	総合地域医療推進学講座 助教
R4.4.1	麻酔科	講師	斎藤 淳一	集中治療部 助教
R4.4.1	内分泌内科、糖尿病代謝内科	助教	遅野井 祥	内分泌内科、糖尿病代謝内科 助手
R4.5.1	神経科精神科	講師	小野 靖樹	神経科精神科 助教
R4.5.1	検査部	助教	土屋 純一郎	検査部 助手

【採用】

発令日	所 属	職 名	氏 名	前所属
R4.4.1	循環器内科、腎臓内科	講師	花田 賢二	つがる総合病院
R4.4.1	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	助教	長瀬 勇人	岩手医科大学
R4.4.1	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	助教	岡野 健介	がん研究所有明病院
R4.4.1	整形外科	助教	千葉 紀之	一般財団法人温知会 会津中央病院
R4.4.1	泌尿器科	助教	沖田 和貴	泌尿器科 医員
R4.4.1	泌尿器科	助教	石橋 祐介	青森労災病院
R4.4.1	泌尿器科	助教	相馬 理	大館市立総合病院
R4.4.1	麻酔科	助教	豊岡 憲太郎	大館市立総合病院
R4.4.1	脳神経外科	助教	片貝 武	十和田市立中央病院
R4.4.1	小児外科	助教	小林 亮	成育医療研究センター
R4.4.1	集中治療部	助教	菅沼 拓也	青森県立中央病院
R4.4.1	周産母子センター	助教	小山石 隼	八戸市立市民病院
R4.4.1	高度救命救急センター	助教	吉田 枝里	青森厚生病院
R4.4.1	高度救命救急センター	助教	白鳥 俊博	山形県立中央病院
R4.4.1	呼吸器内科、感染症科	助手	奥村 文彦	国立がん研究センター東病院
R4.4.1	神経科精神科	助手	片貝 公紀	むつ総合病院
R4.4.1	皮膚科	助手	高橋 実か	皮膚科 医員
R4.4.1	産科婦人科	助手	對馬 立人	産科婦人科 医員
R4.4.1	産科婦人科	助手	黒瀧 紗希	つがる総合病院
R4.4.1	産科婦人科	助手	ZHANG HEMIAN	産科婦人科・医員
R4.4.1	麻酔科	助手	加藤 広大	麻酔科 医員
R4.4.1	麻酔科	助手	石山 絵里奈	麻酔科 医員
R4.4.1	麻酔科	助手	佐藤 有里	麻酔科 医員
R4.4.1	脳神経外科	助手	佐々木 貴夫	脳神経外科 医員
R4.4.1	脳神経外科	助手	水上 藍	青森市民病院
R4.4.1	集中治療部	助手	山崎 佑真	麻酔科 医員
R4.4.1	集中治療部	助手	平井 直樹	麻酔科 医員
R4.4.1	集中治療部	助手	内田 達士	麻酔科 医員
R4.4.1	高度救命救急センター	助手	奈川 大輝	村上新町病院
R4.4.1	高度救命救急センター	助手	渡邊 亮太	脳神経外科 医員
R4.4.1	高度救命救急センター	助手	一山 紗彩	北里大学医学部附属病院

【配置換】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R4.4.1	神経科精神科	助教	小野 靖樹	神経精神医学講座 助教
R4.4.1	高度救命救急センター	助教	對馬 迪子	脳卒中・血管内科学講座 助教
R4.4.1	眼科	助手	野月 徳実	地域医療学講座 助手
R4.5.1	高度救命救急センター	助手	今村 優紀	胸部心臓血管外科学講座 助手

【辞職】

発令日	所 属	職 名	氏 名	異 動 先 等
R4.3.31	皮膚科	講師	中島 康爾	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.3.31	高度救命救急センター	講師	石澤 義也	青森県立中央病院
R4.3.31	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	助教	須藤 亜希子	大館市立総合病院
R4.3.31	泌尿器科	助教	岩村 大径	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.3.31	泌尿器科	助教	小島 由太	市立函館病院
R4.3.31	泌尿器科	助教	小玉 寛健	青森市民病院
R4.3.31	産科婦人科	助教	大澤 有矩	大館市立総合病院
R4.3.31	麻酔科	助教	松本 杏菜	武蔵野徳洲会病院
R4.3.31	小児外科	助教	齋藤 傑	成育医療研究センター
R4.3.31	集中治療部	助教	木下 裕貴	むつ総合病院
R4.3.31	集中治療部	助教	大石 将文	十和田市立中央病院
R4.3.31	周産母子センター	助教	大谷 勝記	青森県立中央病院
R4.3.31	高度救命救急センター	助教	中田 真道	青森県立中央病院
R4.3.31	神経科精神科	助手	中村 ジェイムス	なるかわ病院
R4.3.31	消化器外科、乳腺外科、甲状腺外科	助手	原 裕太郎	青森市民病院
R4.3.31	泌尿器科	助手	小西 栄	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.3.31	産科婦人科	助手	門ノ沢 結花	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.3.31	麻酔科	助手	久保田 実怜	青森市民病院
R4.3.31	麻酔科	助手	三上 典子	大館市立総合病院
R4.3.31	脳神経外科	助手	柳谷 啓太	十和田市立中央病院
R4.3.31	脳神経外科	助手	木下 翔平	脳神経外科 医員
R4.3.31	脳神経外科	助手	野村 優	脳神経外科 医員
R4.3.31	集中治療部	助手	大山 翼	青森県立中央病院
R4.3.31	高度救命救急センター	助手	井川 明子	青森県立中央病院
R4.3.31	高度救命救急センター	助手	上野 浩太	脳神経外科 医員
R4.3.31	高度救命救急センター	助手	青柳 有沙	札幌医科大学附属病院
R4.3.31	高度救命救急センター	助手	入江 仁	国立病院機構弘前総合医療センター
R4.5.31	眼科	講師	斎藤 昌晃	福島県立医科大学
R4.5.31	高度救命救急センター	助手	奥村 文彦	八戸市立市民病院

診療教授等新規称号付与者 (R4.3 ~ R4.5)

称 号	氏 名	所 属	期 間
診療准教授	高畑 武功	消化器内科、血液内科、膠原病内科	令和4年4月1日～令和7年3月31日